

福井県小学校教員会  
平成21年11月25日  
教育委員会文化センター

## 持続発展教育(ESD)について

金沢大学フロンティアサイエンス機構  
特任教授 鈴木実徳  
電話/ファックス: 076-234-4896  
E-MAIL: SUZUKI@STAFF.KANAZAWA-UI.AC.JP

## ESDって何かしら？

- ESDとは、「持続可能な開発のための教育」、「持続発展教育」などと訳されます。  
私たちや子供、孫たちが安心して安全に、そして公正に暮らせるような、持続可能な社会を作るための人づくりです。
- 今ESDが重要と言われるのは、今の社会が少しおかしくなっているためです。このままでは、今の私たちと同じ生活を世界中の人たちが、また、私たちの子供や孫が享受することができません。

## 私たちの生活と持続可能な社会づくり

私たちを取り巻く社会が変化し、環境問題をはじめとする様々な問題が私たちの脅威になりつつあります。

### 地球規模の環境危機

- 地球温暖化、今世紀最大の環境問題
- 熱帯林の減少
- 化学物質汚染

### 身近な社会の危機

- 過疎高齢化、限界集落
- 医療・福祉問題
- 子供の自然や社会に対する無関心
- いじめ、不登校

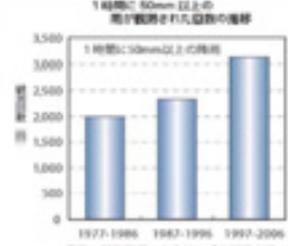
→ 何かがおかしくなっているとの不安

## 我が国における集中豪雨も増えています

気象庁のデータによれば、過去30年間に、我が国における集中的な豪雨は確実に増加しつつあります。



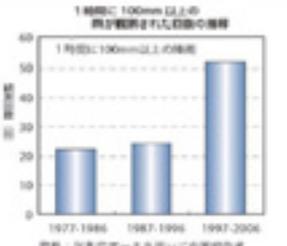
1時間 50mm以上の  
雨を観測された日数の増減



期間	日数 (平均)
1977-1986	約2000
1987-1996	約2300
1997-2006	約3000

資料：気象庁アーカイブを基いて内閣府作成  
(単位：国土交通省)

1時間 100mm以上の  
雨を観測された日数の増減



期間	日数 (平均)
1977-1986	約20
1987-1996	約25
1997-2006	約50

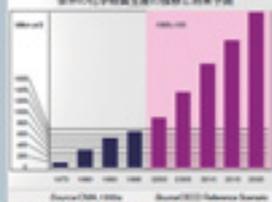
資料：気象庁アーカイブを基いて内閣府作成  
(単位：国土交通省)

## 地球規模の環境危機 化学物質による汚染



### 化学物質汚染

世界の化学物質生産の増大と消費予測



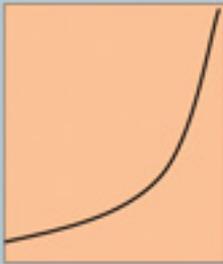
私たちが化学物質のスープの中を泳ぐケンゴムか？

出典: WWFジャパン

## なぜこのような危機が訪れたのでしょうか？

- 産業革命以降の急激な人間活動の増大が地球の生態系にひずみをもたらしているからです。
  - 過去30年間にわたり、人類はその安全において例を見ないほど、迅速かつ広範囲に生態系を変えてきました。
  - そのような変化は、私たちの生活水準や福祉の向上に大きく貢献しました。
  - しかし、それは、多くの生態系サービスの喪失、一部地域での地産の増大といった犠牲ももたらされてきました。このような傾向を修正し続けることはできません。
  - 地球の生態系はもはや無限の恵みをもたらしてはくれません。
- 今の私たちのライフスタイルは持続可能なものではありません。世界中の人たちがアメリカや日本のようなライフスタイルをするためには、地球3つ分くらいの自然資源が必要です。

## 転換期にある文明 20世紀の文明観



- 大量生産、大量消費という西歐的な文明観に支えられた右肩上がりの経済成長
- 資源が無限にあるかのごとき錯覚に基づく環境破壊、資源の浪費
- 結果として、地域的な資源配分の不公正や貧富の拡大を招いた
  - ▶アメリカのエネルギー消費量は、世界で一番多いと言われるアフリカのサブサハラ地域の27倍、タンパク質取量は20倍
  - ▶一方で飢餓により肥満に悩む人たちがいる、他方で栄養失調で死んでいく子供たちもいる

## 価値観の転換(パラダイムシフト)の必要性 21世紀に求められる文明観



人口や消費水準の減速、減少へ

- では、私たちは、生活水準を下げるような耐乏生活をしなければならないのでしょうか？
- 私たちは、生活の中で随分と無駄をしていないでしょうか？
  - 日本の食品ごみは毎年1900万トン、家庭からの生ごみの40%は食べ残し
- 伝統的な知恵を活かすことで無駄をなくすことができるのではないのでしょうか？
  - ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんは日本の「もったいない」文化を世界に広めました。

## 持続可能な開発のための教育の10年 (2005-2014)

- 2002年に世界の首脳が集まって21世紀の地球環境について議論した際に日本が提案
- 国連総会決議として採択(2002年12月)
  - 2005年1月からの10年間として実施
  - 国連科学文化教育機関(ユネスコ)を国連の推進役に指定
- 国連による国際実施計画(2005年10月)
- わが国の国内実施計画(2006年3月)



## ESDの学び方、考え方

### ESDを通じて学びたいこと

- まず私たちの周りの自然や社会について興味と関心を持ち、学ぶこと(認識能力の育成)
- 身近な社会や世界とのつながりから、持続可能な社会とは何かを考え、自分たちの価値観やライフスタイルを見直すようになること(批判的な思考能力の育成)
- 学ぶだけでなく実践する力を身につけること(実践力の養成)

## ESDのもう一つの側面

環境教育、国際理解教育、世界遺産教育、人権教育等の個別分野の取組みだけでなく、様々な分野を通じて最終的に目指すものに向かって、相互の関連性を考え、総合的に取り組むこと

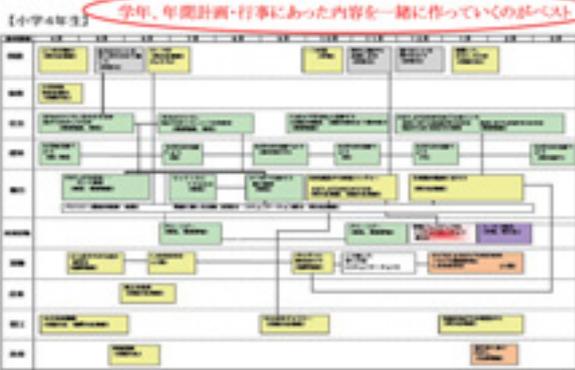


## 日本ユネスコ国内委員会からの提言 ESDの更なる推進について

### ESDに関する5つの重要な視点、新しい視点

- ESDの実践は教育そのものに求められる活動と大きく異なる。
- ESDに対する国際社会の認知度を高める方法を具体化するべき。
- ESDの学び方、教え方に対する各国の取組みを進めるための支援方法を強化すべき。
- ESDに社会の家事を促す価値観を取り入れるべき。
- 持続可能な開発についての共通の理解の形成過程と連動する教育の実現を目指すべき。

## 東京都の東雲小学校の取組み 教科学習と総合的学習の時間の一体的な活用



## ESDの特徴

- ESDとは、全ての学校で既に何らかの形で実践されており、例えば英語教育のように、従来の科目に新たに付加されるような性格のものではない。
- 各学校が現在行っている学習指導計画を見直す際に、ESD的な視点がどこにあるかを確認し、教科間のつながりを考えることにより、ESDの推進が図られる。
- 一つの学年、一つの教科や総合的な学習の時間のだけでなく、教科間のつながり、学年間のつながりを考えることにより、教員にとっても、生徒たちにとっても学びの目的や関連性をはっきりと任氏と気されるようになる。

## 学習指導要領におけるESDの明示

(2008年3月改訂)

- 「持続可能な発展」、「持続可能な社会の構築」が求められている状況に鑑みた改善の実施
  - 教科等を横断して改善(環境教育、ものづくり教育)
  - 各教科・科目等の内容の改善(社会、地理歴史、公民、理科、技術・家庭)

### 【具体的な内容例】「社会、地理歴史、公民」

- 改善の基本方針
    - 持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。
  - 改善の具体的な事項
    - 持続可能な社会という視点から環境問題や少子高齢社会における社会保障と財政の問題などについて考えさせる学習を重視して内容を構成する。
- 重点施策の一つとして「持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の充実」を記述

## 教育振興基本計画(2008年7月)

- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策  
いつでもどこでも学べる環境をつくる  
持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進
  - 一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について、広く啓発活動を行う...
  - 特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコ・スクール加盟校の増加を目指し、支援する。

## ユネスコ・スクールによるESDの推進



## ユネスコスクール推進に向けた文部科学省通知

- 平成20年4月22日付で  
文部科学省国際統括官及び初等中等局長の連名で  
都道府県知事、都道府県・指定都市教育委員会教育長宛てに  
ユネスコスクールの推進とそのためユネスコスクール申請手続の改善について  
通知が行われた。



## 日本のユネスコ・スクール 2009年7月現在



日本全国で92校、北陸で13校  
ESD推進のための教材活用ガイドも整備



ESD教材活用ガイド  
平成21年3月に作成、出版  
全国の13の小中学校による  
ESDの実践事例を収録

## ESDの普及促進のための知の拠点づくり

OECDによる地域の連携構築



ご清聴ありがとうございました。

